



神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 49

2006年
2月 3月

役員会報告..... 1	助成金情報のお知らせ..... 7	会員の広場
H.18年度総会開催案内..... 2	都市近郊農家との意見交換会 7	マータイさん来日..... 14
第12回市民環境活動報告会. 2	部会・部活動報告	スイス自然環境学習..... 15
県のグリーン教育実施支援シ ステム実施結果報告..... 4	エネルギー部会..... 7	音の環境教育講座から.... 16
グリーン教育(川崎市立小田小 学校)..... 5	ケナフ部会..... 8	住まいの省エネセミナー... 17
グリーン教育(茅ヶ崎市立今宿 小学校)..... 5	自然環境部会..... 9	平塚環境ファンクラブ..... 18
グリーン教育(平塚市立みずほ 小学校)..... 6	大気環境部会..... 10	リーダー会に入会して.... 19
	水環境部会..... 12	リレー登場
	廃棄物 GO3 部会..... 12	環境学習について考える..... 19
	グリーン部会..... 13	伊勢原でのボランティア. 20
	地域サポート部..... 14	編集後記..... 20

役員会報告

(事務局長 大森 勝)

2月役員会(2月13日)

1. 確認事項

1月末会員数

正会員 169名、賛助会員 7名、特別会員 3名

合計 179名

2. 付議事項

第12回市民環境活動報告会

・役割分担の確認を行い、県土整備課の助成金で一部パネル作成と輸送費を賄う

18年度子ども環境体験教室

・各部会より6テーマの応募があり、その選出は環境科学センターに一任する

18年度県グリーン教育支援システム

・3小学校で実施するが、来年度は他の学校にもアプローチして受託を増やしたい

17年度地球温暖化防止活動推進員等研修・テーマ別研修

・大気部会が“そら”の部で実施するが、18年度は他の部門も参加をお願いしたい

平成18年度総会

・会報49号と同時に議案書を4月初旬に配布するので、新役員候補等早めに決定する必要がある

3. 報告事項

ケナフ部会の活動分野の拡大

・古紙を使った紙管を活用した工作を、部会の活動として取り入れる

18年度エコボックスのコーディネーター

・12名の会員が参加しているが、来年度は人数見

直し(減少)の計画が予想されている

3月役員会(3月13日)

1. 確認事項

2月末会員数

正会員 168名、賛助会員 7名、特別会員 3名

計 178名

2. 付議事項

(1) 総会資料審議

第1号議案(H17年度事業報告案)

第2号議案(H17年度決算報告案)

第3号議案(H18年度役員と分担案)

第4号議案(H18年度事業計画案)

第5号議案(H18年度予算案)

各部会予算については再検討する

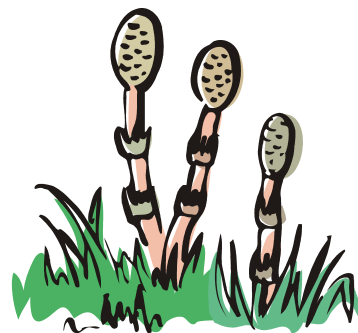
(2) その他

横浜市の共同オフィス借用

横浜市市民活動支援センター(みなとみらいクリーンセンタービル)の事務スペース(2m²)を借用する。

NPO法人の取得検討

取得のメリット、デメリットを明確にして検討を始める。



神奈川県環境学習リーダー会

平成18年度 総会 開催のご案内

代表 安丸 元一

新緑の息吹の感じられる季節となりました。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成18年度の神奈川県環境学習リーダー会総会を下記の通り開催いたします。皆様ご多忙とは存じますが、是非、ご出席下さいます様ご案内申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合につきましては、書面によって委任または議決権を行使することが出来ますので、「総会資料」をご参照の上、同封の葉書に必要事項をご記入の上、事務局宛に4月末日までにご返送下さいます様お願い申し上げます。

記

《 総会 》

1. 日時 平成18年5月13日(土)13:00~15:00
2. 場所 神奈川県環境科学センター 2階会議室
3. 議題
第1号議案 平成17年度 事業報告承認の件

第2号議案 平成17年度 収支決算報告、監査報告承認の件

第3号議案 平成18年度 役員選出の件

第4号議案 平成18年度 事業計画案承認の件

第5号議案 平成18年度 予算案承認の件

各部会の平成17年度活動報告・平成18年度活動計画につきましては、会報に掲載しております。

以上

なお、「総会」終了後に懇親会を予定しております。交流の良い機会として、多くの皆様のご出席をお願いいたします。

《 懇親会 》

1. 時間 16:00~
2. 場所 リビエラホール
(平塚駅ビル ラスカ6F屋上)
TEL 0463-21-6311
3. 会費 3,000円

第12回市民環境活動報告会 開催される

第12回市民環境活動報告会実行委員長 柳川 三郎

去る2月18日、第12回市民環境活動報告会が神奈川県環境科学センターと当リーダー会の共催により、かながわ県民センター2階ホールにて行なわれました。

環境保全・環境学習に情熱を注いでおられる、地球温暖化防止活動推進員、かながわ環境カウンセラー協議会、K・リーダー会と一般市民の方々からたくさん参加をいただきました。

報告会では、2年目を迎えたポスターセッションが充実した姿での対面の学びは盛況でした。

開会にあたり、当K・リーダー会の代表安丸元一氏の挨拶では、忍び寄る地球規模での温暖化の厳しさを切々と訴えて、このときに、一人一人の活動がいかに大切で重要であることを強調されました。

以下に基調講演及び14件の演壇発表・ポスターセッションを紹介いたします。

(以下、敬称略)

なつかしい風景を再現 - 平塚にホテル舞い戻る -

金目親水公園ホテル保存会 米村康信
親水公園ホテル保存会は平塚市と県立高校・市立中学校の教師と地元の有志で6年前に発足した。

ホテルに何も知識のない会員の情熱によって、ホテルの里 金目親水公園 は努力の積み上げで再現した。

平塚市のホテル生息状況は数年後には水路に年間の通水がなくなって、1地区3地点となるのではと心配されている。

会の活動では水質・カワニナの調査において湧水が流れている為、水質の悪化は認められないがカワニナの数が減少し自然増殖が危惧されている。

ホテル里親制度を3年前から実施して、市民と共に活動を行い、ホテルの幼虫の放流は当初30匹から現在は830匹になっており、3月の上陸調査・観察会を行い、きめ細かく活動を展開している。会員は毎夜ホテルの状況調査を実施し

て変化を確実に把握している。

エコタウンかながわ 2005 (神奈川県9ブロック区分による実情と課題)

神奈川県環境学習リーダー会 狩野光子、
安部洋子、鎌田英光、斉藤昭一、
立石定巳、吉田榮一、原園信夫
「自分の町をもっと知らない」と「もったいない」と考え、区分は神奈川県が廃棄物をブロック内で処理する為の9ブロック区分。

神奈川の緑地は、全国平均に比べ約40%と非常に少ない。対昭和47年比、川崎49.05%減少、県西は3.9%減少と最小である。みどりを行政だけでなく市民一人一人がもっと敏感に考える必要がある。

大気環境面のNO₂は、横浜は44ppbと群をぬいて高い。横須賀・三浦は35ppbと比較的に低め。大和・高座は東名、246号線に隣接のため比較的高い。県西は車が比較的に多い割りに濃度は一番低い。

家庭部門のCO₂の排出量は、全国平均値よりやや低い(各市のデータ収集がすくないので継続的に調査)。又、終日営業のコンビニについて1万人当りの事業所数はベストが逗子市1.88、ワーストが湯河原町4.77であります。乗用車の10人当り保有台数はベストが川崎市2.44、ワーストは愛甲郡4.17となっている。

家庭から排出される化学物質は、平成17年5月神奈川県記者発表の「平成15年度PRTR届出対象物質排出状況一覧表」を分析して、1位p-ジクロロベンゼン(防虫剤、消臭剤の原料)、2位、3位は直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩とポリオキシエチレン=アルキルエーテル(合成洗剤)。上位3物質で家庭排出量の80%以上である。

廃棄物の一人あたり排出量は、平成15年度において、全国平均1,106g、県の平均は1,122g。1kg超は、横浜、川崎、厚木、真鶴、湯河原、箱根であるが、その後、横浜、厚木は改善が進んでいる。

外来生物の河川分布状況は、フロリダマミズヨコエビ、コモチカワツボ、サカマキガイ、コシダカヒメモノアラガイ、アメリカザリガニ等が5年前に比べて上流へ大変に広がっている。纏めとして、今後、新アジェンダ21かながわを夢でなく目標達成のために調査、分析、活動へ力をあわせて取り組んでいく。

“化学物質と環境”への取り組み

かながわ環境カウンセラー協議会(KECA)
化学物質委員会 中山育美

PRTR(平成13年施行)をきっかけとして環境リスクを減らしていく為に市民、事業者、行政との協働を企画実施している。

横須賀「水と環境」研究、市民グループでの講演会の実施、化学物質について市民アンケートを相模原、藤沢、横須賀、茅ヶ崎の環境フェアで実施し、ダイオキシンがもっとも多い。

今後は情報の発信、広報活動を強化していき社会のニーズに対応する。

基調講演 アルプスは少女ハイジの楽園だったのか - スイスと比べわが国の山村問題を考える

社団法人林道安全協会専務理事 林政総合調査
研究所客員研究員 山縣光晶
シュバーベンの子どもたち カスバナツツエ
少年の物語 で明らかにされた山村の貧困な悲惨さは子どもを虐げていた。アルプスの山村は都市部の発展に伴い格差は拡大していったが、山村や伝統的な生業の危機を、山村だけの問題でなく、都市部を含めた国民全体の問題であるとの認識が高まり、山岳地帯の振興は憲法に明文化されて国民的コンセンサスとなった。

わが国では、かつて、保安林などの法制度が導入されて規律ある森林の保護と利用の仕組みが出来上がり林業は盛んになったが、今日、わが国の森林は経済的に立ち行かなくなり、森は荒廃して悪しき負の循環過程に陥り、必要な人手が加えられずに過密で脆弱な木々であふれて、危機的な状況である。

国民全体の4%の山村の人口、それも高齢化が進んでいる山村だけの課題としてだけでなく、都市部の国民の支援システムの確立が急務である。

そして、機能不全を起こした林業・森林について、都市国民を巻き込んだ循環システムの再構築が必要だ。

ポスターセッション

1. かながわ環境カウンセラー協議会の活動紹介と入会の勧め。
2. 二宮町、葛川における「環境啓発活動と川の調査活動」 葛川をきれいにする会 藤田尚志
町民の環境意識の向上と葛川の自然環境の復元及び景観保全ときれいな安全な川としての親しみを目標に活動をしている。
3. 気付き 考え 行動する 環境教育・環境学習 - 横浜市S小学校の環境教育・環境学習の3ヶ年 -
アース・エコ 北村博子
15年度省エネ体験学習(4年生)次年度温暖化対策WS(5年生)そして6年生になって地球温暖化防止普及啓発活動実践計画WSを継続的に活動した。

4. 平成 17 年度 NO₂ 測定調査 6 月・12 月の速報
当リーダー会大気環境部会
6 月：352 地点、12 月：405 地点の調査マップを作成、12 月が冬型でやや高めであった。
5. 部会員の省エネ生活
当リーダー会エネルギー部会
部会員が電力の消費量、水道、ごみ、ガソリンの省エネ生活を実践活動して CO₂ は数年で 25%以上の減少。
6. 水生・外来種分布調査活動
当リーダー会水環境部会
県内の鮎沢川を始め、10 河川の調査結果、サカマキガイ、コモチカワツボの生息を発見した。
7. 神奈川県下のごみ状況
当リーダー会廃棄物 GO3 部会
カレンダーから見るポイント（一人当たりの 1 日の排出量、蛍光灯について、資源回収について）
8. 環境 WS としてケナフ部会の活動
当リーダー会ケナフ部会
神奈川県環境科学センターでのケナフ栽培記録及び出前講座でケナフを通して環境学習

- 活動。
9. 買い物で社会を変えよう
当リーダー会グリーン部会
私たちの生活が買い物を通して地球環境問題と密接につながっていることを知ってもらう啓発活動。

地域にねづいた環境活動を目指して「よこはま G30」への協力と大岡川源流域に親しむ活動

磯子区環境を考える会 秋保友子、真木利枝
よこはま G30 への協力で共感を得ながら円滑に進み大きな活動成果を達成した。
大岡川源流域は磯子区の残されたかけがえのない場所で、自然を学び保全実践活動への取り組み展開している。

みんなで明るく楽しく！！アイドリングストップ活動

地球温暖化防止活動推進員 古代信行
地道に主要駅前にての広報チラシの配布による継続的な啓発活動の行動記録。
バス・タクシーを対象にしたきめ細かい ISC 推進活動の経緯と実績。

県のグリーン教育支援システム実施結果報告

事務局長 大森 勝

先に県のグリーン教育システム受託について報告しましたが、教育実施を終了しましたので報告します。（詳細は担当部会より報告）

1. 川崎市立小田小学校（1 月 19 日実施）
実施要領：3 年 3 クラス 102 名を 2 グループに分け第 3、4 時限及び第 5、6 時限と 2 回に別れ実施。
担当部会：エネルギー部会（アース・エコ協力）9 名参加
テーマ：環境保全意識とエネルギー関係の体験学習を行う
工作：ソーラー電池を使ってオルゴールを鳴らそう
2. 平塚市立みずほ小学校（1 月 24 日実施）
実施要領：5 年 2 クラス 44 名を第 3、4 時限に実施
担当部会：グリーン部会 7 名参加
テーマ：食べ物を題材に買い物と環境問題のつながりを学ぶ
ワークショップ：生産地によって運ばれるエネルギーが違う、季節はずれの野菜はエネルギーが多く必要なことを知る

3. 茅ヶ崎市立今宿小学校（3 月 2 日実施）
実施要領：4 年 3 組 96 名をクラス毎に、第 1、2 時限、第 3、4 時限および第 5、6 時限と 3 回に分け実施
担当部会：廃棄物 GO3 10 名参加
テーマ：自然エネルギーについて学ぶ
工作：ソーラークッカーを作ろう

総括

各学校とも多くの会員の参加により、学校の希望にあわせたテーマを踏まえ、体験学習・ワークショップ・工作を通じ児童に環境の大切さを楽しく学んでもらった。

学校及び県の評価は高く、次年度以降のグリーン教育支援実施に弾みがついた。



グリーン教育支援制度環境教育： 川崎市立小田小学校

アース・エコ 北村 博子

雲一つなく快晴に恵まれた1月19日。川崎市立小田小学校、新エネルギー実験・体験会場の屋上では浜風が強く、口を膨らませ一杯に息を吸い込んで微風風力発電の羽をまわそうと力む児童、太陽光発電で走るドラえもんを追掛け、燃料電池発電で回るプロペラ・ソーラークッカーの仕組み等自然エネルギー・新エネルギー実験機器に釘付けになり食い入るように覗き込む児童たちの上げるその歓声も、強風に途切れがちであった。

川崎市立小田小学校第3学年児童102名のエネルギー実験・体験学習プログラムは、新エネルギー実験・体験 省エネルギー実験・体験 太陽光電池利用工作：「太陽電池でオルゴールを鳴らそう」の工作体験3WSを組み立てた。

第2ワークショップの省エネルギー実験・体験では、手回し発電で電気の働き、待機電力測定・照明の消費電力比較、待機電力/保温電力の無駄などの実験を体験。手回し発電機を回すこと：自分の手で回すエネルギーが電気を作り、ブザーが鳴り、豆球が点き、プロペラを回せることを実感して、児童たちは多くの気づきを得たことでしょう。

省エネルギー体験では、照明の消費電力の違いを肌で感じ、小学3年児童ながら省エネの大切さを「納得！」の発言があり、本当に頼もしく感じました。

太陽光電池利用のオルゴール・LED組み立ては、この日の衆目を集めました。児童たちは、工作開始からもう夢中。細かい手先を必要とするところもありながら、分からない子は隣のこの作り方を覗きつつ必死で組み立てようとし、器用に出来る子は、自分の組み立てが終われば、言われること無く進んで、遅れている子の組立てを手伝っていて、自然に教室中が力を合わせて学習が成立していました。組み立

てが終われば誰言うとも無く、窓際に駆け寄り、明るい方へパネルをかざし、オルゴールの鳴り具合に耳を傾け大満足の様子でした。終わりに当たっては、自然からエネルギーを貰って電気を起こせること、現在のエネルギーのほとんどは、化石燃料から得ているので、無駄無く使うことが大切なことも理解出来たようです。

太陽光・太陽熱や風力の自然エネルギー利用発電、手回し発電/省エネ実験、工作等の体験で身近に見、触れ、作り、動かして、児童たちは今までになく瞳を輝かせ好奇心に満ち溢れていたと、参観のお母さんたち広報活動の方達の感想でした。



グリーン教育

「自然エネルギー “太陽の恵みについて考えてみよう”」～ソーラークッカーを作ろう

廃棄物・GO3部会 原園 信夫

3月2日(木)茅ヶ崎市立今宿小学校4年生3クラス97名を対象に、工作室で1クラス2時限を3回実施しました。
内容は、

- ・太陽のことを考えてみよう(30分)
- ・ソーラークッカーを作ろう(晴れたらゆで卵を作ろう)(60分)

各クラス5~6班。その班毎に「お日様が朝出てきたら明るくなる。夕方日が沈むと暗くなる。夏は暑い。冬は寒い。このような現象は太陽のおかげである。太陽のあることでどのようなことが起きているか考えてみよう」と、ポストイッツに各自思いついたことを書いてもらい、植物への影響、動物への影響、自然現象、人への影響などに分類し各班に発表

してもらいました。

「影が出来る」「酸素が出来る」「植物が育つ」などいろいろなことが出てきますが、最初は、太陽があるのはごく当たり前のことで、考えたことがないから戸惑ったようでしたが、時間とともにスムーズに発想でき、班毎の発表も「発表が楽しかった」という振り返りシートでのコメントもありました。

まとめとして、2日は曇り日だったので「なぜ雲が出来るか」を話し、前半終了。

子供にとって、楽しい工作の時間に入りました。早くできた人は、ちょっと遅い人を手助けしたり、ごみを集めたり、補助教材を手配したり、班で協力しながら皆が時間内に完成するようチームワーク豊かに運営していました。(振り返りシートにそのことも書いてありました。)

そのほか、曇りなのでゆで卵が出来なかったこと

は残念、ほかのレシピも教えて欲しい、太陽のこともっと知りたいなどのコメントもありました。1日に3回教えるのに仲間からブーイングが出ましたが、勤務の都合で1日に集約していただきご協力ありがとうございました。子供達の楽しい笑顔、助け合いを肌で感じた1日でした。



グリーン教育支援制度環境教育： みずほ小学校授業実施報告

グリーン部会長 杉山 陽絵

今回私たちが授業を実施することになった平塚市立みずほ小学校は、平塚市の北部、学校の周りに田んぼや畑が点在する恵まれた環境の中にある小学校。理解ある校長先生のおかげで授業を実施することができました。

メンバー7人で実施する初めての授業ということで、少々緊張しながら子どもたちを図書室で迎え、授業がスタート。たくさんのスタッフや白衣を着た博士、風呂敷で隠された紙しばいなどに、子どもたちは興味津々の様子。まずは各地のお雑煮の話で子どもたちの気分を和らげ、続いて、この日のために作り上げた紙しばい「冬のおつかい」を上演。随所で博士がクイズを交えながら旬の野菜や輸送エネルギーのこと、地球温暖化のことなどを分かりやすく伝えていきました。時には実物の野菜をみせたり、様々な種類のマイバックを見せたりして、子どもたちの集中力が途切れないよう工夫をしました。

後半は、紙芝居の登場人物「ミキちゃん」のお誕生日パーティーを準備しようという設定で、「カレー班」「サラダ・から揚げ・フライドポテト班」「デザート・飲み物班」に別れ、環境のことを考えた買い物の疑似体験をしてもらいました。リアリティーを持たせるために、実物の食材(産地の異なる野菜、旬の野菜と季節外れの野菜、包装の方法が異なるお菓子など)も準備し、その中から必要な食材を選び、選んだ食材と選んだ理由を模造紙にまとめ、発表し

てもらいました。

時間内に作業が終わるか心配していた私たちをよそに、子どもたちは商品を手にとり、表示を良く見ながら、どれを選んだらよいかをしっかりと考えてくれました。

終了後の振り返りでは、「同じ食べ物でも違うことがある(例えば煎餅はプラスチックを多く使用しているものとしていないものがある)ことがわかった」、「イチゴの旬が春だということを知って知った」、「買い物が地球温暖化とつながっていることがわかった」、「いろいろな食べ物の旬を知って、買う時に“これは今が旬だから買おう”と思えるようになりたい」、「家族に買い物する時は、環境のことを考えて食材を選んで教えたい」、「買い物に行く時にどんなものを買ったほうが良いのかも勉強したい」、「買い物に行くのが楽しみなになった」、「買い物で環境にいいものを選ぶことがすごく楽しかった。」といった感想を寄せてくれました。

子どもたちを惹きつける話術、グループワークでのスタッフの関わり方、買い物疑似体験用の商品準備などいくつかの課題も見つかりましたが、子どもたちの反応に手ごたえを感じるとともに、今回の経験を活かしてプログラムを改良していきたいと考えています。



助成金情報のお知らせ

地域活動サポート部 香川 興勝

一昨年（平成 16 年）地域活動サポート部が実施した会員向けアンケートで、会員が所属する市民環境活動団体の活動上の課題の一つとして活動資金の不足が明らかになりました。

そこで、比較的高い確率で交付が受けられる各市町村の行政から交付される助成金情報のお知らせです。行政からの助成金は市民団体が自発的に行っている市民活動を財政的に支援し、市民参加によるまちづくりを進めるために多くの行政から交付されています。

紹介する助成金情報は“アジェンダ 21 かながわ環境情報相談コーナー”（かながわエコ BOX）がまとめたものです。“かながわエコ BOX”で検索する

都市近郊農家との意見交換会

高橋 尚道（横浜市）

2月19日（日）横浜市営地下鉄「立場駅」から徒歩約10分の所にある「大木農園」の作業小屋前で、経営者の大木敏幸氏から農園の実情、経営方針等について説明を受け、質疑応答ののち、露地野菜の収穫体験を楽しみました。

工場の生産管理の手法を、巧みに農業に採り入れている大木さんのお話、時のたつのを忘れ、予定の1時間を大幅にオーバーしてしまいました。

内容については、近藤部会長の報告との重複を避けるために省略しますが、狭い農地を最大限に活用して、「多品種少量生産」と「直販」に徹するという、都市近郊農家の知恵と経営努力には心底頭が下がり

か、次のホームページで検索すると、助成金情報欄に記載されています。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/ecobox/index.htm>

ここでは助成金の募集要綱 / 助成金制度、申請先・連絡先、ホームページ、助成対象団体、募集期間、選考方法、助成金額などが記載されています。

但し、主として平成 17 年度の情報ですのでこれを参考にして 18 年度を調べてみてください。調査方法・調査先は前述の通りです。

なお、3月16日現在 18 年度の助成金募集要綱は秦野市、茅ヶ崎市、大和市から出ています。積極的に申請して活動資金を獲得しましょう。

ました。

今度の計画は、無農薬栽培が可能な冬の露地野菜について、露地栽培農家との意見交換を目指したために、敢えて寒い2月に設定しました。

前回（別グループ）は、県のご紹介で三浦半島の農家と行いましたので、当初同じ農家に依頼しようかと思いましたが、集合の利便性から横浜市内の農家が適当と考え、横浜市南部農政事務所のご紹介で、大木農園さんに決まった次第です。

個人的には、同じ都市近郊農家といいながら（農地の規模に差はあるものの）、両者の農業経営手法には大きな違いが有ることを実感でき、大変勉強になりました。

部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動報告（18年2月～18年3月）

2月度定例会

2月12日（日）13：00～15：00

会場：県民サポートセンター602号室

参加者：岩澤、大森、吉田栄、北村、鎌田、児玉、吉田光、小田、安藤、

リーダー会役員会の報告

市民環境活動報告会について

ポスターセッションパネルの紹介

親子で楽しむ環境展

昨年同様、アース・エコと共同で取り組む

17年度経費見込み

スターリングエンジン実演

市民環境活動報告会

2月18日（日）県民サポートセンター

リーダー会の部門報告とパネルセッションに参加

3月度定例会

3月14日(火) 14:00~15:30

会場: 県民サポートセンター602号室

参加者: 北村、大森、吉田栄、児玉、鎌田、小田、
岩沢、香川、山田、中島、安藤

役員会報告および決算見込み報告

情報交換

購入した風船地球儀とその説明資料について

見学会

4月15日(詳細は未定) 予定の地球シミュレーターの公開に参加

「神奈川県地球温暖化対策地域推進計画」

上記に関し、各自意見提出を申し合わせ

部会長、リーダー会の当部会担当役員、会計選

出

部会長および当部会担当役員は安藤、会計は中島が選出された

親子で楽しむ環境展

展示物、出品物の検討

活動予定(18年4月~18年5月)

1. 定例会(於: 県民サポートセンター)

4月11日(火) 13:10~15:00 705号室

5月9日(火) 13:10~15:00 702号室

2. 見学会

4月15日(土) 海洋開発研究機構(地球シミュレーター)一般公開参加(予定)

17年度活動報告

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会活動方針

環境科学センター及び環境学習リーダー会のご協力と支援を得て、ケナフ部会の活動も7年目に入りました。環境科学センターの隣地を本年も利用させて頂く予定で準備を進めています。今後とも地球環境の改善と言う共通の目標に貢献出来ればと決意を新たにしています。

本年度も昨年同様、環境学習リーダーとして各々の地元でリーダーとなり、地域同士の連携をはかり、環境科学センターを利用して頂き、更なる研修を図っていきたくと考えています。

平成17年度の活動総括

昨年度は下記の方針で活動して参りました

1. 各地での催す展示会に積極的に参加します。

次の3点を基調に活動したので、その成果と併せて報告します。

省エネ生活の率先垂範

集計した9名分の平均電力消費量は前年比13%減、平均家庭比18%減。ガスは顕著な効果出ず。水道は前年比9%減、平均家庭比16%減。併せて、この成果や手法を各自の啓発活動の中で活用した。

会員相互の情報交換とスキルアップ

定例会では必ず実施した(12回)

テーマは環境税等の制度から太陽光発電の様な技術的課題まで幅広く及んだ。

リーダー会事業への積極参加

親子で楽しむ環境展、子ども環境体験教室(2回)、グリーン教育(1校)については、「気づきから始め、行動へ導く」のコンセプトのもと、現アース・エコと共同で実施、成果あり。

その他、エコタウン2005、市民環境活動報告会等に参加。

18年度活動方針

17年度の上記3項目を基調とする活動を継承すると共に、スキルアップに向けた活動も強化する。

- ・省エネ生活の率先垂範とその成果の活用
- ・会員間の相互交流と相互啓発
- ・リーダー会事業への積極的参加
- ・スキルアップの為の見学会
- ・資格取得に向けての情報交換

6月のリーダー会主催の環境展、7月、8月環境科学センター主催の「子ども環境体験教室」に参加致しました。

2. 各地でのケナフ紙漉きに協力していきます。

横浜市、藤沢市、平塚市、相模原市、等で実施致しました。

3. 更なる研究活動及び講演会を開催します。

本年度は埼玉県比企郡小川町 埼玉伝統工芸会館及び久保昌太郎さん宅の「細川紙」の製造工場を見学及び久保さんから和紙づくりについて、及びそれを作る職人の心髄について聞かせて頂きました。

平成17年度は、環境科学センター野崎さんの斡旋で地元の農家から耕耘機を借用しましたので、作業は楽になり、土も細かく耕せましたが堆肥不足を感じましたので、18年度は堆肥を多めに入れます。

平成18年度方針

平成17年度に引き続き、

1. 環境科学センターの圃場を利用した、ケナフの栽培研究及びケナフ教室を開催の際の材料供給をする。また、耕耘機を利用して土を細かくする事により、堆肥は農家に頼んで2トン入れて土地改良致します。
2. 環境学習リーダー会、環境科学センター主催のイベントに協力して行く6月の環境展、7月、8月の環境科学センター主催の「子ども環境体験教室」にも積極的に協力していきます。
3. 各地でのケナフ紙漉き等の協力要請があれば協力していきます。今後、学校等で要望が増えると思われるので出来るだけ、協力出来るよう資料、道具等を揃えて行きます。
4. 地域でのケナフ部会の結成に協力していきます。環境学習リーダーが各地でイベント開催される場合には協力していきます。
5. 更なる研究活動及び講演会を開催します。平成15年は工場見学、16年は山梨県南巨摩郡中富町西島383「なかとみ和紙の里」、17年は埼玉県比企郡小川町の紙工場を見学して紙漉等の研鑽をしましたが、本年度も実施する予定です。
6. 紙管（リサイクル用紙）を利用した工作作り。リーダー会第1期の古澤さんが主宰されている相模原市にある日本化工機材株式会社の工房、「REWOOD」をリーダー会で活用したらどうかとの話があり、ケナフ部会の活動に加えることを役員会で了承を得ました。リーダー会員の方で材

料が欲しい方には出来るだけ便宜を図りたいと思いますのでご相談ください

なお、お願いですが、ケナフ部会の活動が増していますが、それをこなすには部員が少なすぎますので、興味のある方が居られましたら是非入会してください。

3月活動報告

ケナフ部会員が携さわった2月～3月までの活動及び4月～6月迄予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

1/27 2月18日開催の市民環境活動報告会の為のポスターセッション用パネル打合せ及び次年度のスケジュール検討

3/24 環境科学センター圃場の耕運を実施

2. 対外的な活動

2月18日 相模原市大野北公民館環境委員会から依頼で、紙管を利用した「写真立て」教室を開催

3. 今後の予定

4月 ケナフ部定例会 ケナフ種蒔き

5月 ケナフ部定例会 圃場の管理及び環境展準備

6月4日 第2回相模原環境まつりに参加

6月17日 リーダー会主催環境展参加

6月 平塚市環境展



写真立て講座風景



寸法を測っています

自然環境部会

部会長 近藤 作司

17年度活動総括と18年度活動方針

自然環境部会の17年度スタートは、前部会長の退任という事態から始まった。従って会報43号（2005年2月-3月）には16年度活動総括も17

年度活動方針も記載されていない。

新年度発足に当たり、安丸代表が部会担当役員を兼務し、自然環境部会の継承を強く求めていた前代表として近藤が部会長を引き受け再出発することとなった。

1. 平成17年度活動総括

活動の基本的考え方は、前部会長岩田氏の表明されていた「自然環境部会は、自然と人間生活のバランスを考えること。つまり、土、水、空気、太陽光、野生生物などと我々との調和と換言できる」と言う言葉に置くことにした。

17年度活動は上記基本にはほど遠いものであるが、まず身近な自然観察から始める事とした。

第1回：県立座間谷戸山公園（7月20日）参加者8名。自然観察のポイントを学ぶ。

第2回：横浜自然観察の森（12月11日）参加者7名。日本野鳥の会の専門家のご指導により「バードウォッチングと森の生きものの観察」を実施。

つぎに地産地消に関係する農産物について学習することにした。

第3回：農産物の収穫体験（2月19日）参加者8名。別掲「都市近郊農家との意見交換」及び「活動報告」参照。

2. 平成18年度活動方針

1. 自然観察を始め自然環境に関係する色々な問題について学び、実体験する。
2. 6月環境展に参加する。
3. 地域交流会との連携。
4. 森林専門家との連携による学習及び現地視察を計画する。

活動報告（2月～3月）

1. 農産物の収穫体験（報告）

場所 大木農園（横浜市泉区中田町）



日時 2月19日（日）10：00～13：30

参加者：安丸、高橋、岩田、藤田、内藤、木本、田村、近藤（8名）

大木農園の経営者、大木氏はある会社の開発部門をリタイアしてから本格的に農業に取り組みられた方で、「安全な品質で社会に貢献」という理念で生産されています。生産面積は1.53ヘクタール、年間生産は52品目（作型は160種）に上る。

生産方式はIT管理による合理化と防虫対策や防草対策を徹底し、省力化と減農薬栽培を図っている。生産物は小学校の給食用に40%納入し、トラックによる引き売りで約40%販売している。一種の地産地消となっている。

当日は大木氏の説明を聞き、活発な質疑応答があり、ほうれん草、人参、キャベツ、ねぎの収穫を体験した。（写真参照）

2. 2月部会（2月19日）

収穫体験会のあと、帰路立場駅近くのスーパーにてミーティングを行った。

今後の活動について意見交換。テーマのみ列挙する。

- ・自然観察
- ・動物の食害問題（4月以降具体化）
- ・6月環境展への出展（パネル展示）
- ・来期事業担当役員推薦
- ・来期予算

新入会員（内藤さん、木本さん、田村さん）



農作物の収穫体験

~~~~~

## 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

### 平成17年度活動総括

メイン目標 人と人とのつながりによる調査データのネットワーク化で「皆ですすめる環境調査」をした結果、「環境マップがK・リーダーの地域活動の証し！」となれるよう目指した1年。また前年からのサブ目標「一人にお任せから大勢が係わる」

も、役員会事業担当・部会定例会・学習会・マップ制作・催事等において積極的な参加協力が得られました。

**NO<sub>2</sub>測定**は、新規入部会員をはじめ、リーダー会員による調査協力や地元グループへの働きかけによるグループ調査参加も得られ、いままで把握できなかった川崎をはじめ、小田原・厚木・秦野等県西・北部へと拡げることができ、リーダー同志として心強い調査・学習パートナーとなりつつあります。同時進行で模索した新地図ソフト MANDARA も、部会員の積極的な挑戦により6月度調査データから新マップ(17年度は県版のみ)へと切り替えることができました。ただし実際の地図入力地点数は、ネットワーク化による測定地点数が増えた割には地図入力地点を整理・厳選した結果、16年度測定入力地点数とほぼ同数となりました。(12月度ろ紙充填=測定地点数400本 地図入力地点数270、6月度278地点)

2年目となった県地球温暖化防止活動推進センター(=アジェンダ推進センター)との協働による「地球温暖化防止の集い」では、“そら”分科会まとめ役とリーダーのポテンシャル(潜勢力)の証しとして新地図によるNO<sub>2</sub>測定マップを発表。続いてテーマの指標づくりに参画、2月には推進員向け研修事業の講師役を新規に担いました。

**自然系調査**は、多忙や病氣入院等の事情から調査参加者の固定化、減少となり、新たな手法等を模索する必要となりました。

#### その他の活動

- ・地域活動サポート部との連携による地域交流会で大気学習会開催
- ・「環境活動支援講座、子ども環境体験教室、環境教育支援講座、地元小中学校総合学習」講師
- ・親子で楽しむ環境展、エコタウンかながわ、横浜カーフリーデーに出展参加。カーフリーをかけた日とかけない日とのNO<sub>2</sub>比較測定を試行。その結果をシンポで発表。

#### 平成18年度活動方針

県は法制度の整備等により市民が測定できる範囲の大気環境は良い状況になりつつあり、逆に酸化物の減少と、(揮発性)炭化水素等とのバランスにより光化学オキシダントの発生等が顕著になっていることを発表しました。しかし常時監視局以外に心配される地域は大気汚染測定により明らかです。また同時に出る温暖化効果ガス・CO<sub>2</sub>との相関濃度を考慮するにも排気ガス濃度を参考にできることは大切なことです。大気汚染のみならず、地球温暖化防止の観点からも県との連携によるさらなる調査の拡がり

と新地図ソフトの高度活用、さらにPRTRデータを活用することから、行政の補完と自らの環境学習、そして市民への環境教育を進めます。

- ・NO<sub>2</sub>測定：6月1日(木)18時~2日(金)18時、12月7日(木)18時~8日(金)18時の24時間先ず測定地点を精査、整理統合して各自自治体共通地点の洗い出し、データによる推移、比較等を表現します。同時に行政が把握する常時監視局データのマップ化、ホームページ化も試み、当部会作成マップとの比較ができるようにします。
- ・PRTR制度を活用し、家の中や外の身近な環境にも配慮してもらえよう市民レベルに着眼点をおいたデータ化を模索、研究します。
- ・自然系調査においては従来ソフトを活用し、新手法を模索します。まずタンポポから。

#### 活動報告(1月~2月)

1月18日(土)18~20時 県民サポートセンター  
主催：アジェンダ推進センター  
基本テーマ“そら”の指標づくり委員会第2回  
安丸、猪股参画

1月23日(月)13:30~16:50 大船NPOセンター  
定例部会開催 部会員：23名になりました。  
出席：井上、岩本、長村、鎌田、草野、近藤、佐伯、立石、田村、花上、安丸、佐藤、猪股の13名

テーマ；12月度測定評価と18年度に向けて  
2月18日(土)10~16時 県民サポートセンター  
「市民活動報告会」ポスターセッションに出展  
2月16日(木)、19日(日)pm 県民サポートセンター  
主催：アジェンダ推進センター  
「地球温暖化防止活動推進員等テーマ別研修」  
“そら”の講師受託：猪股、サブ；草野、安丸

#### 活動予定(4月~6月)

**ウメノキゴケ類の観察、タンポポ調査、6月度NO<sub>2</sub>測定にご参加ください!**

4月1日~5月31日 新タンポポ調査スタート!  
調査エリアを自宅半径500mに狭め、4種(カントウタンポポ・セイヨウタンポポ・シロバナタンポポ・その他のタンポポ)に分類し、本数を報告。詳細は別紙参照ください。提出期限：6月30日  
提出先：猪股 tel：0467-32-6858 fax：不可  
Email：km\_inmt@ybb.ne.jp

5月22日(月)「大気指標生物観察会」(雨天中止)  
平塚駅前 番乗り場集合 10:10発「平35湘南平」行  
部会員外で興味をお持ちの方もどうぞ。歩きやすい運動靴等で。

要事前連絡 0467-32-6858 猪股

5月22日(月)13:30~ KERC 実習室

部会とNO<sub>2</sub>捕集管・ろ紙準備

6月1日夕6時(木)~2日(金)の24時間測定

6月10日(土)13:30~ KERC 実習室

NO<sub>2</sub>分析

6月17日(土)10~16 県民サポートセンター1階

「親子で楽しむ環境展」に出展、分析体験も

6月29日(木)13:30~ 大船NPOセンター

VOC(揮発性有機化合物)・PRTRプロジェクト

## 水環境部会

部会長 齊藤 昭一

### (1) 17年度活動報告

西丹沢水系の河川の外来種調査に重点を置いた活動、ほぼ計画どおり全水域にわたり調査を完了する事ができた。外来種のなかでもフロリダミズヨコエビが金目川などからも確認された、またコモチカワツボがほぼ西丹沢水系の河川の相当の上流にまで生息域を広げている事が確認された。

### (2) 18年度活動方針

本年度は再び酒匂川中心にもどり外来種の調査をする。いままで支流、用水等にて発見されていた、

フロリダミズヨコエビ、コモチカワツボ等を本流中心に調査活動を行います。

### (3) 活動報告(2~3月)

2月18日「市民環境活動報告会」に参加、活動報告、パネル展示、参加者多数。

### (4) 18年度活動計画

5月21日 9時、大井松田駅(山側)集合

6月25日 9時、大井松田駅(山側)集合

7月16日 予定日

上記いずれも酒匂川本流、外来種調査となります。

## 廃棄物GO3部会

部会長 原園 信夫

したが、17年度から新たに部会として活動して来ました。

### 17年度活動総括

GO3の会として、有志でゴミ削減提言を行ってきま

|   | 計 画                                                 | 実 績                                                                                                               | 課 題                                                                  |
|---|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 1 | 県内 37 市町村のごみ分別カレンダー収集と分析                            | 収集分析も6年目に入り、市町村のごみ分別の変化が数字として現われ始めました。                                                                            | 広域処理が進みつつあります。県内同じ分別への第一歩だと考えます。                                     |
| 2 | 「GO3 ごみ減量テキストブック」「GO3 お買い物ルールブック」作成                 | テキストの作成までにはいたりませんでした。                                                                                             | ごみ減量学習プログラムをメンバーとともに学び教育現場で発揮できる能力を高めることが重要。                         |
| 3 | その学習プログラムをCJCに登録し、活用の拡大を図る                          | クリーンジャパンセンターの3R材料を使い、子供体験教室で3Rとその素材について教えました。                                                                     | 引き続きクリーンジャパンセンターの3R教材を活用していく                                         |
| 4 | 環境学習リーダー会のメンバーにも加わってもらい、積極的なごみ対策を行政、事業者、市民に働きかけていく。 | 13期の方の入部で部員登録は12名になりました。昨年5月には「環5号」を発行し、市町村へ郵送しています。                                                              | 容り法の改定は、レジ袋、ごみの有料化など市町村での対応が求められます。視野に入れ行動することが必要です。                 |
| 5 | その他 各環境フェアに協力しました。                                  | ・子供環境体験教室(7、8月)<br>・親子で楽しむ環境展(6/4)<br>・鎌倉環境フェスタ2005<br>・地球温暖化アジア太平洋セミナーサイドイベント<br>・厚木環境展(18年1月)<br>・かながわエコタウン2005 | 昨年の好評で2教室開催しました。また、各地でリーダーが活躍するフェアに協力・出展しました。廃棄物のテーマを明確にしていきたいと思います。 |

### 18年度の活動計画

収集と分析を継続します。

1. 県内 37 市町村の「ごみの出し方」カレンダーの

2. 各種環境展に協力出展していきます。



3. 学習プログラムとして、「ソーラークッカーと太陽エネルギー」「3R 学習」「買い物ゲーム」を進めていきます。
4. 会報誌「環」の発行を行います。

#### 活動報告(2~3月)

- 1月31日 茅ヶ崎市立今宿小学校に出向き、グリーン支援教育の内容について打ち合わせを行う。
- 2月18日 市民環境活動報告会でパネル展示とかながわエコタウン 2005 報告で廃棄物部分を報告
- 2月18日 部会開催「グリーン支援教育受託について」

- 3月2日 茅ヶ崎市立今宿小学校で4年生97名に対し、「自然エネルギーを学ぼう」「ソーラークッカー製作」の授業を受け持つ。
- その間 メールで教案作成会議。

#### 活動予定(4月~6月)

- ・部会 4月15日ごろ カレンダー分担、役割分担、事業計画対応
- ・4月~5月 ごみの出し方カレンダー収集
- ・5月中旬(部会) 県内ごみの分析
- ・6月環境展対応及び子供環境体験教室打ち合わせ
- この間 グリーン支援教育 教材の素案検討

## グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

### 平成17年度活動総括

環境のことを考えた買い物をする「グリーン購入」の行動を広めることを目的に今年度設立した「グリーン部会」の活動1年目は、メンバー一人一人の考えや思いを理解し合うことからスタートし、試行錯誤しながら活動の「はじめの1歩」を踏み出した1年となりました。創設間もない6月に開催された親子環境展への出展が弾みとなってメンバーから様々なアイデアが出るようになり、8月には紙しばい第1弾「エコエコ商店街 ~なつ休み編~」が誕生。さらに1月のグリーン教育支援制度を活用した環境教育では、紙しばい第二弾「冬のおつかい」と環境に配慮した買い物を疑似体験するワークを組み合わせた環境教育プログラムを実施することができまし



鎌倉環境フェスタ

た。リーダー会主催のイベントや事業に参加することで様々な経験を積むことができ、収穫の多い1年になりました。

17年度に参加したイベント・事業は下記のとおり

です。

#### 6/4 親子環境展

- ・環境ラベルのポスター展示
- ・文具や野菜の実物を用いた「おつかいゲーム」の実施
- 8/27 かまくら環境フェスタ
- ・紙しばい「エコエコ商店街~なつ休み編~」上演 ・文具や野菜の実物を用いた「おつかいゲーム」の実施
- ・「グリーン購入カルタ」(仙台市作成)の実施
- 9/10 温暖化防止シンポジウム関連イベント(みなとみらい)
- ・紙しばい「エコエコ商店街 夏休み編」の上演



温暖化防止イベント

- 1/24 平塚市立みずほ小学校  
神奈川県グリーン教育支援制度による環境学習
- 2/18 市民活動報告会 ポスターセッション参加

### 18年度活動方針

- 1. 環境プログラムの拡充
- ・買い物ゲーム・キット(商品模型)の作成



- ・新規紙しばいの作成（春・秋用）
- 2. 生産者や販売者と交流
- 3. メンバーのスキルアップ

活動予定

4/16 9:30～ ミーティング(ひらつか市民活動サポートセンター)

## 地域活動サポート部

部長 香川 興勝

### 平成 17 年度活動結果報告

地域活動サポート部は、地域懇談会（3 回）地域交流会および施設見学会を開催して、県下に分散している会員の親睦をはかるとともに、情報の交換や専門知識・技術の向上に努めた。

特に平成 17 年度は 7 月から地域懇談会を県下各地で開催し、開催地域に在住する会員に出席していただいで活動内容の紹介や本会発展のための建設的なご意見をいただくとともに親睦をはかった。

平成 17 年度の主実施事項は次の通りです。

1. 地域懇談会の開催 - 詳細は会報を参照下さい -

第 1 回：7 月 11 日（月）鎌倉市 NPO 鎌倉センター 参加者 16 名

第 2 回：9 月 12 日（月）小田原市尊徳記念館 参加者 18 名

第 3 回：11 月 14 日（月）相模原市大野北公民館 参加者 17 名

2. 第二回地域交流会 - 詳細は会報誌を参照下さい -

テーマ：清らかな自然・大気と語ろう会

10 月 1 日（土）藤沢市学習文化センター

講師：環境科学センター 高橋通正専門研究員、相原敬次専門研究員

活動報告：大気環境部会 猪股満智子氏

3. 第二回施設見学会 - 詳細は会報誌を参照下さい -

JFE アーバンリサイクル（株）工場見学 川崎市水江町

四大家電製品のリサイクル工場 参加者 17 名

11 月 7 日（月）13 時～17 時

### 平成 18 年度の活動計画

概ね平成 17 年度に準じて実施する予定。

地域懇談会は横浜、横須賀、秦野、綾瀬、平塚などを候補として検討する。

第三回地域交流会は情報交換・専門知識・技術の向上をねらってエネルギー関係をテーマにして実施する予定です。

また、恒例の施設見学会は海洋研究開発機構横浜研究所などを予定しています。

会員の皆様のご協力・参加を宜敷くお願い致します。

## ケニア副環境相

ワンガリ・マータイさん（ノーベル平和賞受賞）来日！

横浜で「MOTTAINAI シンポ」と「子どもたちとの交流」

会員の広場

児玉 勇（横浜市）

昨年 2 月に来日して「勿体ない」という言葉に感動し、世界中に「MOTTAINAI 運動」を提唱しているケニアの副環境相マータイさんが今年も再来日され、2 月 15 日は横浜で、横浜国立大での植林後、

第 1 部 シンポジウム「マータイさんと語ろう」  
～ MOTTAINAI で世界を変える～

第 2 部 マータイさんと子どもたちの交流  
が開催された。

松沢県知事、中田横浜市長もパネリストで参加されたシンポジウムに先立ち、マータイさんは基調講演でいろいろ活用できる「日本のふるしき」を首に巻きながら「環境保全なくして平和はない」と熱演

し、550 名の聴衆から大きな拍手を得た。

27 年間、3000 万本の植樹を行い、女性の地位向上、平和運動に厳しい中で取り組んできた実践者の話は、非常に説得力があり共感を呼ぶものであった。

シンポジウムでは「リサイクル技術・省エネ技術の進んだ日本の力」を評価し、地球温暖化防止への日本が大きく貢献する期待を強調された。

第 2 部は神奈川県「マイアジェンダ登録運動もったいないから始めよう」の一環として募集した子ども達の入賞作文の表彰式に松沢知事と参加し、13 人の受賞者に一人ずつにこやかに握手を交わし、



マータイさんを囲んで

会員の広場

素晴らしいスイスの自然環境学習施設  
活動発表会・パネル展示会

佐伯 秀夫（横浜市）

先日開催された「第 12 回市民環境活動報告会」の基調講演の中で講師の山縣氏は、わが国の森林破壊の現状を打開していく上でスイスが曾て悲惨な状況にあった山村部を美しい山岳を主体とした文化的景観のレベルに引き上げた成功事例が参考になるとし、スイスが国を挙げて取り組んで来た諸施策や、民間のイニシアチブにより策定された都市部と山村部の支援システム等について紹介しておられた。

実をいうと私が初めてスイスの地を訪れたのは 15 年前のこと、それ以来すっかり同地の風光に魅せられてしまい、既に 10 数回同地を訪れハイキングや見学等に親しんで来たが、昨年訪れた地域の中で 2 箇所の自然環境学習施設を訪れる機会をもつことが出来た。そして、そのような大変ユニークな学習施設の存在こそ、山縣氏が述べられたスイスの素晴らしい諸施策やシステムづくりを実証することになるのではなかろうかと考えたので、以下に紹介することとする。

1. 世界遺産の中の自然環境学習施設

その世界遺産とは「ユングフラウ～アレッチ氷河～ピエッチホルン地域」のことで、ヨーロッパ最大で最長（全長約 22km）のアレッチ氷河（以下、同氷河）とその源流になるユングフラウ・メンヒ・アイガー等の名峰群や同氷河の末端部の名峰ピエッチホルンに至る 540 平方 km の広大な地域で、2001 年世界自然遺産に登録された。

観光地としては、同氷河の最上流に近く鉄道の世界最高駅になっているユングフラウ・ヨッホや、同

激励される光景が見られた。

イタリアでの冬季オリンピックの開会式に参加後、12 日に来日されたマータイさんは東京・福島・神奈川・愛知・福岡で精力的に講演・植樹に参加されて 23 日に帰途につかれた。



氷河中流の展望台であるエッグスホルン等が有名であるが、当該学習施設は同氷河の最下流で川になって流れ出す付近一帯と温暖化の影響で干上がりつつある氷河跡に自然発生的に生成している森林地帯（“アレッチの森”と名付けられ 1933 年に保護地区に指定された）が対象になっている。

当該学習施設のある地域への行き方であるが、先ずスイス南部の交通の要衝であるブリークから私鉄で東方 3 つ目のメレルで乗り換え、ロープウェイ、チェアリフトを乗り継いでアレッチ氷河の下流部の展望台ホーフラーに行き、そこから西へ尾根伝いに 20 分ほど下ると、学習施設の中核である“カッセル館（英国人カッセル氏の旧別荘を改装したもので、1973 年よりエコロジーセンターになっている）”に到着する。

カッセル館のすぐ下はアレッチの森が広がっているため、氷河までの標高差約 500m の樹林帯に設けられた数通りの観察コースを下りながら、麓の“研修センター”を目指す訳である。もちろんガイドを予約すればより充実した学習が可能になるが、日本語のガイドはいないそうである。

地球温暖化が進行しているさ中であって、ヨーロッパ最大の氷河がどのように変わっていくのか、その学習のための施設を世界遺産として位置づけたことは、まことに意義深いことと思う。

2. 国内唯一の国立公園が自然環境学習施設

スイスには風光明媚な地域が数多くあるが、国立公園の名が付けられているのは唯一つ、単に“National Park”と呼ばれている地域で、1909 年に自然保護団体の提唱により自然環境学習の実践の場として設立された。

スイスの南東部、イタリアとオーストリアの国境に程近い場所にあり、面積は 162 平方 km、標高 2 千 m 級の山々に取り囲まれた太古からの森林地帯で、展望としては特に見るべきものはない。しかし、

公園の中では動物保護が徹底され、自動車走行が許されているのは公園を貫く1本の国道のみで、その国道を鉄道駅ツェルネット(サンモリッツの東、鉄道で1時間)とミュスタイア(世界遺産の修道院がある)の間を結ぶポストバス(郵便輸送を兼ねた定期バス)が走っている。

公園内のバス停は公園設定以前からの歴史をもつホテル前と、研修のための宿泊施設前の2つのみで、象徴的に思えたのは次なる停留所は森林限界を超えて眺望のよいフォルン峠なのだが、国立公園は森林地帯に限られているのでそこは国立公園では無いことである。

公園内でのキャンプ、火の使用、動・植物の捕獲や伐採は禁じられているが、広大な森林主体の国立公園であるから森林に関する環境学習はもとより、域内に定められた17コースのハイキングを楽しむことも出来るようになっている。

森林保護や生態系保存の重要性は今後益々高まることになる筈であるから、約100年もの昔に国立公園を設立して迄もそのための環境学習を続けて来たスイス国及びスイス国民に、改めて敬意を表する次第である。

## 会員の広場

### 18年2月25日開催「音の環境教育講座」から活動取組を考える

岩下次郎(藤沢市)

環境教育と名が付く講座で、音に関するものはこれまで、ネイチャーゲームぐらいではなかったか。今度の講座は千葉県環境研究センターの石井皓研究員による、永年にわたって研究された成果を体系的にまとめ、より実践的手法になっている印象をもった。

昨年九月の衆議院選挙にみる「小泉劇場」と揶揄されたメディア報道の話題のなかで、人が他人から受け取る情報の割合のうち「話す言葉の内容」はわずか7%。「見た目・身だしなみ、仕草・表情」が55%、「声の質(高低)、大きさ、テンポ」が38%だとの研究結果を、アメリカの心理学者アルバート・メラビアン博士が発表、新潮新書から竹内一郎著『ひとは見た目が9割』を発売し、13万部のベストセラーになっている。

およそ人間の五感の順位づけは、視覚、聴覚、臭覚、触覚、味覚が一般的に納得できるものではないか。かつてパリ・コレ、ファッションのものと知覚、流行の色や形は、どうやって形づくられるのかを探究した時代があった。天地創造神話では「はじめにロゴスあり。『光あれ』と叫び夜と昼をわけた」とあるから、イメージを想起させる『音』ではないかとの考えに傾き、講座の意義をかみ締めている。しかし聴くという様々な姿勢の難しさも痛感する。巷では黙って相手のいうことを聞く「聴き屋」が夜の繁華街に現れているという。しゃべるだけ、しゃべり金をおいて立ち去る酔客はカタルシス(人間浄化)を得ているのだろう。「傾聴」とは、相手の話を

ひたすら聴くことだという。

ともあれ豊かな社会は、時間の速度をあげ「漆黒の闇」がほど遠い世界をつくりあげ、氾濫する音をまき散らし、夢の中の自己体験的恐怖心、聞こえない、見えない、畏怖するほどの自己の恐怖心が、他人への思いやりに繋がった時代の感覚がなくなってきた。

こうした思いやりを時代を超えて語る技術はあるのだろうか。環境問題を語るとは、自己の精神構造をつむぎ、現実社会とのバランス感覚を採り入れ、相手に気づかせる話題性を取り込み、聴き手をひきつけ、実際の動機づけにも繋がる手法と理解する。

京都議定書発効から一年。数値目標との見比べにおいて悲観論もでるこの頃。3Rにみる「足るを知る」意識を、環境教育のなかに取込めないか。「足る」との意識モラルを、どう形で入れられるか。欧米ではマックスウェーバーの研究にみる『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を育んだのは200年の時間経過がある。わが国でも近江商人のとく商道德を語りつなく時代があったという産業人もいるが、西欧列強に遅れまじと明治維新期の指導者は『勸業献策』を旗印に強権をもって国の方向をきめ、40年で成果をあげ、戦後の護送船団方式につなげてきた。数の多い方が勝ちの、戦後の制定・民主主義は、理性というブーメラン現象が伴わない数の暴力で押し切り、ミーイズムは公の倫理を忘れさせてきた。かつての公害を克服した科学技術をもって、環境は改善できるのだろうか。この2月、第12回市民活動報告会で環境学習リーダー会の狩野さんは「つつましく、ゆるやかな生活」を個人目標にと締めくくられていた。もって敬すべし。

## 家の作りやうは、夏をむねとすべし 我が家の今夏の暑さ対策 『住まいの省エネセミナー』を受講して

鎌田 裕二（大和市）

昨年 11 月から本年 2 月まで「住まいの省エネ」を主題とする一連のセミナーが「県地球温暖化防止活動推進センター」主催で開催された。武蔵工業大学の宿谷教授や、一級建築士の方々が講師となり、人間が「住まい」のなかで感じる「暑さ」「寒さ」を、実験を交えながら、その仕組みをわかりやすく解説し、その対策への示唆に富んだ内容であった。「夏は冷房 28 度、冬は暖房 20 度」という温度設定が大々的に啓発されているが、空調を前提にした啓発が、正しい事であるのかどうかを、改めて考えさせられる機会であった。そのセミナーで学んできたことのすべてをここでは紹介できないが、かねてより行っていた「打ち水」に加え、我が家での今夏のための備えを、会員の皆様のご参考になればと思い、ここに紹介する。

夏の強い日差しを遮ることがまず必要である。家屋の南側に落葉樹があれば、冬は日陰とならないので理想的である。日差しを屋内のカーテンで遮るのはあまり効果的でない。なぜならカーテンが熱くなりそれが屋内を熱くするからである。「すだれ」「よしず」は当然効果的である。窓からできるだけ離れたところで遮光する。

水が蒸発するときには「気化熱」と呼ばれる熱が奪われ周囲の温度を下げる。「打ち水」はその現象を利用している。前述の日差しの遮光とこれを同時に実現してくれるのは「植物」である。

同時に水が蒸発するとそれは上昇気流となる。南側で上昇気流が起きれば、北側の日影の場所にある、比較的温度の低い空気が、通り道を確認してあれば、流れてくる。すなわち「風」が起きる。風が人間にあたると人間の汗の蒸発を促進し、気化熱を人間の体から奪う。それが「涼しさ」である。

鉄筋コンクリート造りのような高气密・高断熱の住居では、日中は暑くなった外気を入れないように窓を閉める。屋内は扇風機で風を作る。屋外からの熱を避ければ屋内気温を保ちやすい。夜、外気温が下がったら、外気を取りこむ。夜通し風を通し、住居（の躯体）をできるだけ冷やす。温度の下がった躯体は次の日の昼間の室内温度を低く維持する。

さて、我が家は鉄筋コンクリート造り 3 階建てのマンションの 1 階にあり、猫の額程度の庭がある。

外壁、バルコニー、庭は共有部分であり自分自身の意思だけでは改造はできない。その制約も踏まえ以下の取り組みを計画している。もちろん今年も「打ち水」は続けるつもりだ。

・「つる性植物による緑のカーテン」

ヘチマ、ゴーヤ、ヒョウタン等があるが、講義参加者の方がハヤトウリを推奨していた。苗はこの会報が皆さんに届く 4 月に入手する必要があるようだ。より高い効果を得るためには「線」ではなく「面」を作ることが必要である。そのためには、つるが伸びる支えには「垂直な紐」だけではなく「格子状の支え（ネット等）」を用意しておく。

・「寒冷紗（かんれいしゃ）」

農業用品で細かい網状のシート。庇の代わりに日差しを遮るために使う。バルコニーの簡易的な庇として、できるだけ窓から離れたところに設置する。

・「安全網戸」

昨年までは、防犯上就寝時にはバルコニー側のガラス窓は閉め冷房を入れていた。「安全網戸」とは侵入防止効果のために網ではなく格子を用い、施錠できる網戸である。これにより窓を開けたまま夜の冷気を屋内に入れることができるようになる。これは市販品ではなく特注品のため、現在入手方法を講義中に出会った先駆者の方に相談中である。

最後に「徒然草」の一節を紹介する。「家の作りやうは、夏をむねとすべし、冬はいかなるところにもすまる。暑き頃、わるき住居は耐へがたきことなり」。日本人はその歴史の中で日本の気候に合った住居を実現してきた。現代の建築は、しかしながら建築基準法（庇は 1m を越えると建築面積に合算される）や、経済性（同じ容積内でより多くの戸数を確保するため平らな屋根と四角い形）という人間社会の理屈が優先されている。地方ごとの気候に合った、住まいと住まい方を見失うことがないようにしたい。

参考文献（前述のセミナーの講師が著者である）

「まちに森をつくって住む」：甲斐敏郎・チームネット OM 出版

「エクセルギーと環境の理論」：宿谷正則 北斗出版





## 平塚市・ひらつか環境ファンクラブ 活動発表会・パネル展示会

ひらつか環境ファンクラブ会長 柳川 三郎

「ひらつか環境ファンクラブ」は地球規模での環境問題を解決するために、身近なことで一人一人が既に行動している人や、環境に興味があり、これから活動を考えている人、又、環境に対する専門的な知識を有する方々が、活動を起こすためのネットワーク作りの場と、それらの知識・技術・体験などを、多くの市民と情報交換を目的としています。

第一回「ひらつか環境ファンクラブ」の活動発表会(3月25日、平塚市教育会館)・パネル展示会(3月24日から28日、平塚市役所1階ホール)とソーラークッカーの実演(3月24日、平塚市役所前の広場)を開催いたしました。

活動発表会は日ごろ平塚市内で様々な分野で活動している「熱き情熱の人たち」で、内容は;

平塚市西部地区で里山をよみがえらせる活動。

子供と親の環境教室「地球っ子ひろば」では、かつての生徒が先生での活動と次から次へと知恵の輪を拡げての学びの展開は着々と上昇。(当会の齋藤氏が代表)

金目川水系流域ネットワークでは、持続可能な地域づくりのための水ネットワークの構築と金目川水系流域の“あるがまま”の自然をコンピューターの中にえがきだして、これからの水環境はどのようにするか。の活動。(当会の柳川が役員)

桂川・相模川流域協議会では、山・森から海まで、水を中心に環境問題にとりくんでいる活動。平塚をみがく会では、町をきれいに - 落書きのないまちづくり -、ニューヨークの前ジュリアーニ市長が実践した「割れた窓ガラスをそのままにしておく、町全体があれて犯罪が増加する」理論に基づいての実践活動は平塚市がきれいになった。(当会の原園氏が代表)

NPO 環境デザインセンターでは、すぐれたソーラークッカーの開発(手作り)、ゴミを出さないくらしの提案、新潟の山村での過疎地で米作り活動。

丹沢山塊の自然破壊では、今も林道建設が大幅に工事されており、憂えての現状実査の活動。

ごみ学級・リサイクルプラザでは、平塚市内すべての小学4年生へ、ごみ分別の指導状況につい

ての実態を、元気よく実演発表。

参加者・発表者の意見交換では;

湘南海岸が侵蝕されているので何とかしなくては、ワールドカップ(2002年)の開催前に平塚みがく会は汚れた街をきれいにした苦勞の連続だった。湘南高校で長く有機肥料作りの実態と実際に有効活用している状況。

当会の意見が行政にどのように反映するか仕組みと対策。

水の流れについてそれぞれが持っている情報の共有化の必要性。

日本橋周辺の復活は新しい時代変換のさきがけ。原子力の学びが小学生にされていない現状の改善方法。

### パネル展示

発表した8団体のほかに、

NPO かながわ環境カウンセラー協議会の活動状況パネル。

東海大学人間環境学科自然環境課程藤吉研究室では、平塚海岸のハマボウフウの減少、ほか植物。平塚市環境共生型企業懇話会では、31企業の活動状況パネル。

金目親水公園ホタル保存会では、平塚にホタル舞い戻るための努力展示。

新倉建築設計事務所では、環境にやさしい住宅設計の重要性展示。

ひらつかの自然を守る会では、次代へみどりの生活環境をつなげる活動展示。

佐川急便株式会社では、天然ガス自動車の導入状況等。

平塚市ごみ減量婦人の会では、ごみ減量の啓発活動展示。

\*長時間パネルに食い入るように学んでいる人々を見て、今回の開催は成功だったと確信しました。

ソーラークッカー実演では、太陽光の焦点集中をすると、想像を超えたエネルギーで料理が出来る実演でした、皆様、環境保全活動を屋外で行うときにはソーラークッカーはCO<sub>2</sub>ゼロで十分に役立ちます、一考してみてください。

「今回の事業で新発見は、環境活動団体・行政・企業・個人が一緒に事業活動を展開すると、優れた内容と大きな効果が誕生して素晴らしい姿になることです」



## リーダー会に入会してみても

長村 吉洋 (川崎市)

昨年、環境実践者講座を受講し、環境学習リーダー会という会が組織されていることをはじめて知りました。かねて、環境問題には関心があったのですが、勉強しなければならぬことがたくさんあるし、環境団体はあふれるほどあり、自分がどういうグループで活動できるのか探すのがなかなか難しいなど、多々悩む点がありました。

この会が神奈川県のお墨付きの講座を修了された多くの先輩の方々が、それぞれの持ち味を活かして全県にわたって活躍しておられる会であるということを知れば知るほど、私にとって「ああ、これかなあ」と感じ、入会した次第です。

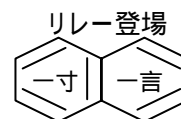
13期の方々は私も含めてリーダー会に入会して、まもなく半年を迎えようとしています。リーダー会についてどのようにお感じになっているのでしょうか？ リーダー会のメンバーはすばらしい方々がたくさんおられるようですし、会としての活動内容

やリーダーとしてアピールできる点がたくさんあるはずなのに、私自身入会してみても新入会員からはなかなかそれらが把握できない点があるのではないかと思います。同時に、皆さんの活動内容に新入会員の方々がどれくらいすんなりと溶け込んでいけるのか、ちょっと不安な面も感じます。有用な人材の宝庫であるのに、リーダー会として充分活かされていらないのではないかという感じを、事ある毎に受けました。組織が大きくなればなるほど、また、ボランティア活動には付き物の問題がどこにでもありますが、やはり神奈川県の問題ならびに環境学習についてはここだと言えるような会であってほしいと願っています。

私自身これまで、化学(と言っても、原子や分子の世界)についてかじったことはあるのですが、環境問題と直接のつながりは持ちえずに来てしまいました。このたびリーダー会の皆様からいろいろな実践活動を通じて学ばせていただき、少しでも役に立てればと思っています。どうぞ、今後とも、よろしくご指導くださいますよう、お願いいたします。

## 環境学習について考える

### 自然観察でつながり・システム・生態系を感じよう



村井 純子 (伊勢原市)

エゴからエコへ、環境教育を待つばかりではなく、市民自らが学ぶ時が来ていると思うが、なかなか意識が変わらないのが現状であると思う。環境問題はできることから、一步一步進めることが大切。そのことは、市民の方もかなり分かっている。ゴミの分別、レジ袋ではなくマイバックを持つ。〔例 私の実践 ... ドアの所に「マイバックは持ちましたか」というカードをつるす〕最近では「もったいない」という懐かしい言葉とともに、昭和30年代の暮らしがノスタルジックに見直されてきている。しかし、研究会で「環境倫理ってなんですか」と質問したら、一歩先のコンセンサスをつくることだと答えてくれた人がいた。マナーの面で環境倫理というコンセンサスをつくることは、法律で規制するより難しいだろうと思う。情報が飛び交う時代だからこそ、**実験**が判断の決め手になるのではないだろうか。

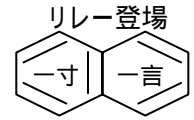
私は、伊勢原の石田小学校の自然観察会(土曜クラブで月に1回 年8回)で「自然観察・もの作り」をテーマに特に**田んぼ**にこだわって活動してきた。募集人数は1年生から3年生まで15名(基本連続

参加+保護者の参加可)で、毎回25名前後の参加を得た。内容は、**田んぼの観察**、草花遊び、草笛を吹こう、トンボを探そう、ジュズダマ集め、どんぐりこまづくり、鳥の観察、春を探そう。などなど。子どもたち以上にお父さんお母さんが喜んでいて、短い時間でトンボを捕まえられるようになった。珍しい鳥を発見した。ジュズダマの首飾りを作った。ヒバリ・アマガエル・糸トンボ・アリグモ・タイワンシジミなど身近な田んぼがいろいろな生き物を育んでいることを実感できた。

その他、フィールドスタッフとして、観察会や雑木林の手入れなどに参加している。自然観察で生態系を知ることが、環境問題を考えるよりどころとなる。自然観察から始まる自然保護、もの作りや稲作文化、自然と人との関わりも含めて、参加型の環境学習が大切であると思っている。まずは、参加型のアプローチを入れた観察会の充実を目指したいと考えている。

今回は横浜市の上田恵一さんの登場です。

# 伊勢原でのボランティア 1年間の活動



石丸 博司 (伊勢原市)

## 自治会活動

伊勢原に住んで 32 年。今年は自治会の役員を輪番制で勤めました。800 世帯の会員で毎年 60 数人の役員が総入れ替え、50 の班にわかれ運営されています。活動はよくありがちな前年度からの継続になり勝ちですが当自治会はうまく変革しています。

私が担当した部は廃棄物減量と分別、K・リーダー会の当時の部会「廃棄物リサイクル部会」の実践版と言ったところと公園 (4 箇所) の整備です。子供会担当の「資源回収の管理」はここ数年少子化が進んで担当する父兄が少なくなり大変苦労していた。これを自治会が引き受け、10 箇所のステーションでの不燃物と資源回収の当番を班長から会員に、さらに排出方法と分別の細分化を計りました。約 1 年がたち会員からステーションでの排出状態が大変良くなったということで、伊勢原市の環境衛生功労表彰を受けようと先ほど市に書類を提出して来たところです。

## 伊勢原環境市民ネットワーク

3 月 18 日、日向ふれあい学習センターで「伊勢原環境市民ネットワーク」の設立総会を開き、長塚幾子伊勢原市長から祝辞を頂きました。基調講演は「エコロジカルな地域づくり」 丹沢大山・伊勢原らしさをいかして と題して日大生物資源科学部 系長教授 (県内主要な地域おこしの立役者) から生態系を基本とした循環型社会の形成に向け、具体的な事例、大山・伊勢原の現状と特徴をふんだんに交えた熱心な話は大変有益でした。ネットワークは平成 14 年 10 月から始まった「伊勢原市環境計画」の策定に関わった環境団体・個人の集団で、また「いせはら環境展」を立ち上げたメンバーで構成しています。私は共同代表として伊勢原における環境の環を広げて行く役割を果たして行きたいと思います。

## 伊勢原市の政策推進

また私は今「伊勢原市行財政運営改善推進委員」「伊勢原市環境対策審議会」のメンバーとして環境問題にとどまらず「元気な伊勢原・ふるさとづくり」に向け提案や審議を進めています。その 1 つは市民参加の促進で行財政運営改善の推進です。



## マイ・エコクラブ

2 年前に立ち上げ代表を務めているグループです。今年度は主に 3 つの活動を推進しました。「環境クリーンパトロール」主に不法投棄の美化と公園施設の整備が中心です。「ゴミ減量化活動」は上記自治会の環境衛生と市の美化センター及び公園緑地課とのパートナーシップで進めています。「エコライフスクール」は公民館とのパートナーシップで、3 スクールで 80 人の参加がありました。

来年度は上記それぞれの活動のバージョンアップと個々の活動の有機的な連動で循環の環を広げて行きたいと思います。

今回は小田原の香川興勝さんをお願いしました。

## 編集後記

今年は寒い日が多かったにもかかわらず、桜が早くもお彼岸を過ぎる頃から咲き始めた。これも地球温暖化の影響が顕著に現れている証拠なのだろうか。京都議定書発効一周年を迎えた 2 月、永田町で開かれた「気候の危機」と題するシンポジウムでは、ポスト京都の政策的決定を目指す議論が示されていた。今後も地球平均気温が上昇を続けることによって、熱塩循環の停止や西部南極氷床の崩壊といった破局的な事態は何としても避けなければならず、我々が許容できる温度上昇を産業革命以前に比べて 2 度までであるとするのが妥当な結論のようである。これを達成するためには、緊急かつ多大な努力が必要とされるが、そのための政策の方向づけをすることもかなりの困難が予想される。温度も経済活動も人口も、我々の活動によってすべてが上昇傾向を続けるこの惑星。本リーダー会もやはり上昇傾向にあるのは、間違いなさそうである。それは、この会報本号が、盛り沢山の内容となっていて、リーダー会会員諸氏の活力が伝わってくることから示されている。

広報部 長村 吉洋

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 安丸 元一

編集人：広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日：2006 年 4 月 9 日